

ひと・まち・自然

トラまちPress (一財) 世田谷トラストまちづくり情報誌

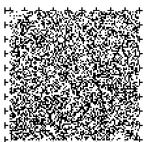
December 2022

Vol. 21



楽しいことも、チャレンジも、みんなでやってみようよ!

地域の想いを
つづらける
場



P7
「子どもの参加」から
地域の「場」づくりへ
さいとうけいこ
齋藤啓子さん

P9
トラまち活動のひとコマ
経堂五丁目特別保護区ボランティア



子どもたちにとって、ワクワクした学びや体験ができる「場」。
多世代の交流が育まれ、地域の人たちにとっても憩いの「場」にもなっている。
時代とともに変化するニーズの中、世田谷トラストまちづくりは、
その誕生を様々な形でサポートしている。

地域の想いでつくられる



—— 楽しいことも、チャレンジも、みんなでやってみようよ！

まもりやまテラス

飛び交う元気な声

「みてみて、オタマジヤクシー!」、「ねえー! レタスが虫にたべられちゃってるー。」畑では子どもたちの元気な声。室内ではコーヒーとお菓子でホッとひと息。そんな発見や体験ができる「まもりやまテラス」。もとは世田谷区立守山小学校、今は既存の建物を活用し、2019年4月より複合施設「守山地区会館、守山保育園、まもりやま工房(就労支援施設)」として生まれ変わった。

まもりやまテラスでは、地域住民がその運営に関わり、人々が集い、ワクワク楽しくなるような、しくみづくりや企画に取り組んでいる。

こは小学校時代から地域の拠点として、住民の活動によって築き上げられてきた。ひとつずつ形の違う想いという石をどう積み重ねていくか。世田谷トラストまちづくり(以下、トラまち)はこの「場」の礎となる住民活動を、その時々に応じてサポートしてきた。これから、その変遷を遡ってみよう。

昭和8年開校と、地域の輪

守山小学校は、1933年に東京府東京市守山尋常小学校として開校した。歴史ある小学校は、子どもたちの学びの場としてだけでなく、地域の様々な組織によっても活用されてきた。

町会が中心となつての夏休みのラジオ体操や、餅つき大会。青少年新代田地区委員会や町会連合会等との共催による地域運動会。おやじの会による校庭キャンプなど、まちの拠点として小学校が軸になり、地域が支え手となつていったのである。

地域住民の熱意を叶えた「まちづくりファンド」

みんなの「あったらいいな」の想いを少しずつ形にしていこうと、保護者や地域住民からなる市民グループ「守山小学校 あつたらいいな、こんな学校の会」以下、こんな学校の会」が1999年に発足した。小学校に地域住民が関わることで、より良い地域と、より良い学びの場に

ていくことを目指し、環境学習を中心に活動を進めてきた。
こんな学校の会は、トラまちが設置した「※公益信託世田谷まちづくりファンド」助成制度を活用して、自然観察会、ビオトープづくり、屋上緑化活動のほか、校庭の一角に、子どもや地域住民が集えるウッドデッキ、守山テラスを整備し、さらに地域交流拠点づくりが進んだ。

※公益信託世田谷まちづくりファンド
区民主体のまちづくり活動の支援を目的に設置。公益信託制度を活用した活動資金支援と、トラまちによるネットワーク支援など、両輪によるしくみが特徴の助成制度。



▲ 2003年 総合的な学習 4年生 校庭に木を植えよう

ヤッマイモ
ほったよー



▲ 2022年 まもりやまはたけ部の活動風景



▲ 2003年 落ち葉だめの柵をつくろう

自然観察会や校庭に生きものを呼ぶために、生きもの専門家の協力も得た。豊富な生きもの話に子どもたちは目を輝かせ、大人も一緒に参加してひょうたん池をつくった。また、世田谷区の協力を得てクヌギの植樹や、剪定枝を使って落ち葉のための柵づくりなど、より良い学校づくりのために、地域の大人の一生懸命な姿を子どもたちも見つめてきた。

トラまちはこれらの活動を、まちづくりファンドを通じて資金面だけでなく、専門家や行政をつなぐなどの支援もしてきた。



▲ウッドデッキ守山テラスのイメージスケッチ
(まちづくりファンド助成申請書より)

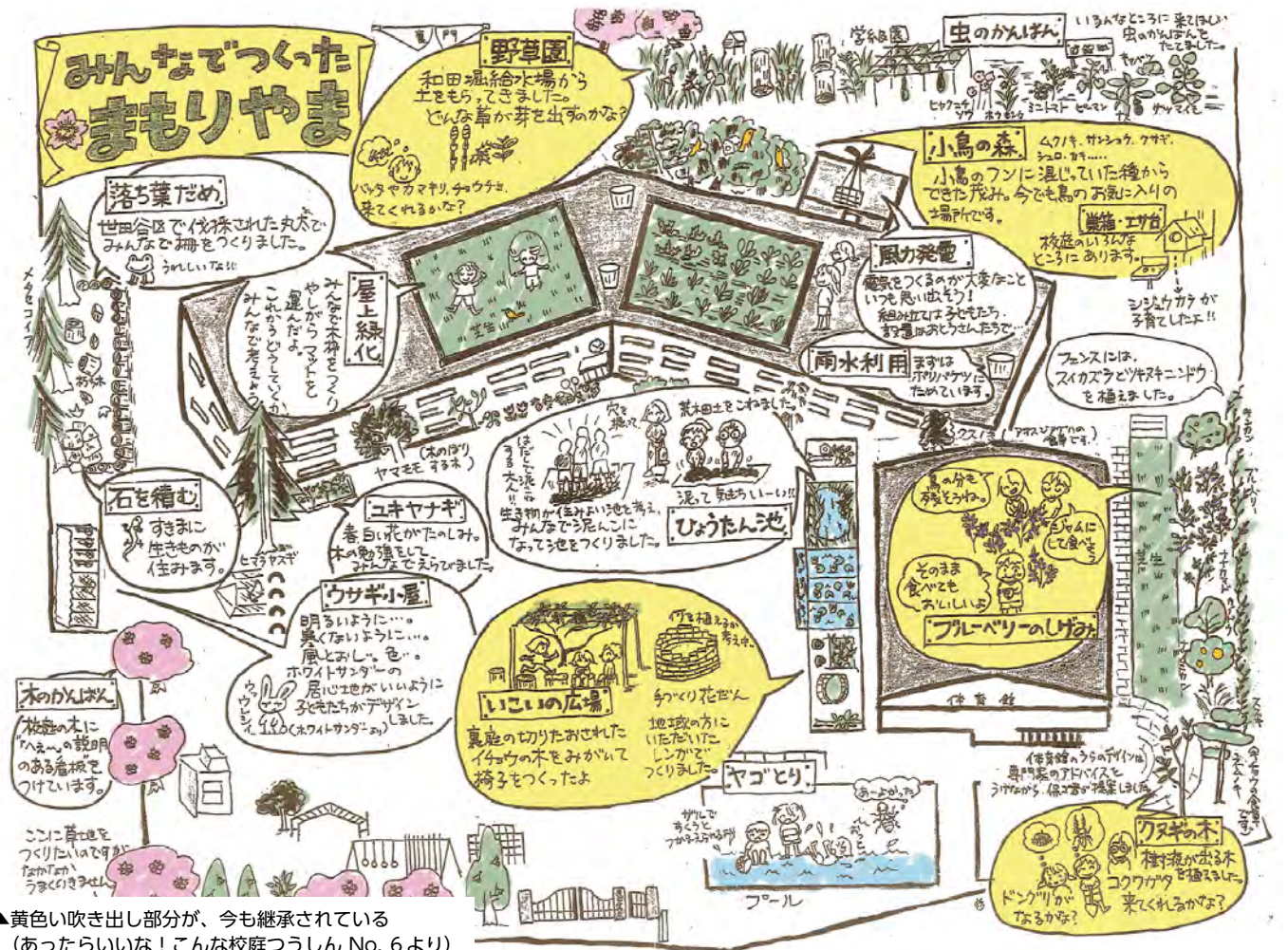
ングでの提案を受け、区は2017年から利活用・運営を一緒に考える住民参加型ワークショップを開催した。トラまちは地域住民からの要望もあり、このワークショップに携わり、住民の想いを共有しながら、複合施設の運営体づくりを手伝ったのである。



▲2014年 想いを共有する一場面

みんなでやってみようよ

ワークショップでは、参加者自らができる企画を提案し、実施してみようと、お試しイベントが企画された。町会、福祉作業所、小学校OB・OG、地域住民、トラまちも加わり、それぞれの発意による7つのプログラムを開催。当日は子どもから大人まで、300人以上が集まり大盛況に。



▲黄色い吹き出し部分が、今も継承されている
(あったらいいな！こんな校庭つうしん No. 6より)

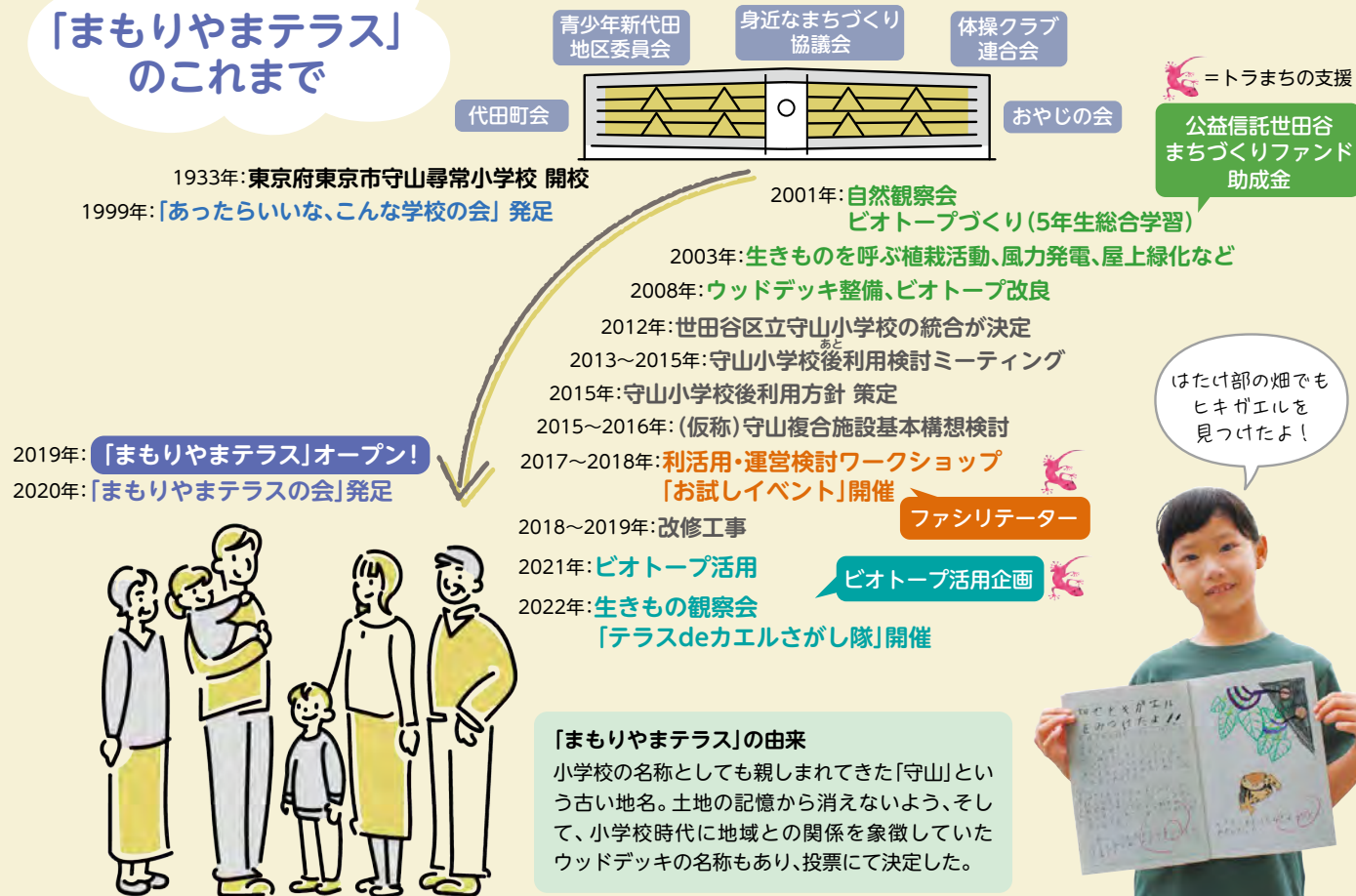
これらの体験は、住民が企画に関わることで生まれる場の「魅力」と、地域組織・住民が連携して発揮する「力」を、改めて実感する機会となった。

「まもりやまテラス」誕生！

こうして2年間のワークショップを経て、2019年に複合施設「まもりやまテラス」がオープンした。翌年、「ワクワク、チャレンジ」をキーワードに、地域住民による、施設運営組織「まもりやまテラスの会」も発足。個人利用のルールを会で決めたり、団体登録をする前には、お試して実施できるトライアルのしくみを設けたりなど、地域住民がテラスに関わるしくみづくりを行っている。

なぜ、柔軟な発想で、様々な試みが公共施設運営で可能なのか。それは区の担当所管の理解と協力もあってのことと言える。地域住民と「場」への想いを共有してきたからこそ、歩調を合わせて進んでいける。今後、まもりやまテラスからの情報発信や、交流イベントの企画実施への取り組みなどに、ぜひ注目を。

「まもりやまテラス」のこれまで



積み重ねの結果

こうして、こんな学校の会の取り組みは、「子どもの学びの場は、地域の人たちが関わることで楽しくつくっていきけるもの」という変化を、学校にもたらす大きな機会となっていた。共通体験や想いを共有するプロセスとなり、学校がまちづくり活動の拠点として、ネットワークが広がっていったのである。

小学校からの想いを残したい！ どうしたらいい!?

しかし、時代の変化、児童数の減少などに伴い、2012年には近隣小学校との統合が決定し、地域は困惑した。以降、複数年にわたり、小学校後利用について、区と地域で後利用検討ミーティングが重ねられた結果、様々な施設が集合する複合施設として、生まれ変わることにした。

新たに生まれる施設が、小学校が担ってきた地域コミュニティの拠点としての場所になるよう検討ミ

世田谷区立 桜丘すみれば自然庭園



▲佐久間さんご夫妻

住民参加により、個人の庭から、区立の公園として開かれたのが、桜丘すみれば自然庭園である。

故・植村傳助氏の邸宅と庭園の跡地で、植村氏の『武蔵野の風景を再現する』という構想のもと、昭和初期につくられ、ご家族が守り育ててきた庭園である。世田谷区では1993年よりこの跡地の取得を進め、2000年からは住民参加によるワークショップを実施し、トラマチもその企画・運営に携わり、想いを形にしてきた。2003年に開設。現在、市民運営グループ「世田谷すみればネット(以下、ネット)」とトラマチが協働して管理運営を行っている。ネットが企画するイベントは、自然観察会やクラフト、演奏会など、多彩な内容で人気だ。

現在、ネットメンバーとして中心的な存在の佐久間夫妻。「公園になる以前から、みどりの多い所だと気になっていたのですが、そこでのワークショップをきっかけに、家族で活動に参加しました。自然に対する意識も高まり、集う人たちとの繋がりもできたことで、私にとつての居場所にもなりました。ネットの運営においては、区の理解や、トラマチとの信頼関係も大きいです。ね。その分、責任感もあります。が、人との繋がりも合わせて、それが20年以上続けられた原動力でもあります。」と。

公共施設というハード面だけでなく、携わるメンバーのソフト面が、より一層、この「場」の魅力となっている。



インフォメーション

所在地：桜丘4-23-12

開園時間：午前9時～午後5時(10月から3月は午後4時まで)

休園日：年末年始(12月29日～1月3日)

電話番号：03-3420-2755

その他：駐車場はありません。

【アクセス】

■小田急線「千歳船橋駅」徒歩10分

■東急バス(園01 千歳船橋～田園調布駅)「砧町東」徒歩5分

■東急バス・小田急バス(渋24 成城学園前駅南口～渋谷駅)「三本杉」徒歩15分

桜丘すみれば
自然庭園のブログ



関わる人に合わせた、やわらかなチームづくり

まもりやまテラスの会の特徴的なしくみのひとつとして、「部活動」がある。地域住民がテラスで自ら行いたい活動を応援するしくみだ。小学校時代からの畑がフィールドの「まもりやまはたけ部」。代表を務める清海さんは、「あつたらいいな、こんな学校の会」のメンバーとして関わりはじめ、この場の歴史を紡いでいる一人だ。

「はたけ部の活動も4年目を迎えるんです。ゆるく活動したかったのでも、詳しい人を呼んで教えてもらおうではなく、みんなで相談して、あえて自分たちでチャレンジして、失敗したりするのが楽しいんです。」

この考え方は「こんな学校の会」の頃から培われたものかもしれない。

お子さんが学校に通っていた頃(2000年)に、PTAの仲間から、イギリスでの取り組みについて知る機会があった。地域が学校に関わってこういう姿勢、子どもが自ら考えて、地域のために行動するという内容に感銘を受け、地域の保護者たちと小学校の環境づくりに身を乗り出した。「区民の皆さんの、意識の高さもすごかったですよ。それに小学校



▲まもりやまはたけ部代表の清海敦子さん

「現在のテラスがあるのは、やはり組織づくりがうまくいったからだと思います。テラスの管理事務所や同窓生、保護者、地域保育、福祉作業所、児童館など、本当に様々な人々が関わり、いいカタチでひらくことができました。また、新しい人たちが入ってくることで、活性化していることもうれしいです。」と笑顔をみせる。

引き継がれた想い、そしてこれから

みんなの想いを引き継ぎ、守山小学校は「まもりやまテラス」として生まれ変わった。この展開は、地域と小学校とが長年関係を積み重ね、地域の拠点として根付いてきたことが土台として築き上げられていたからこそのである。

これからも多様な人々が関わり、関心を寄せ合うことで、地域にとって大切な「場」としてあり続けるだろう。

● まもりやまテラス 憲章 ●

まもりやまテラスはかつて小学校でした。
地域の人々が花ざくらの下で集うことができる
まちの拠点でもありました。
生まれ変わったこの場所で
新代田地区に住んでいるみんながつながり
気楽に話すことができたり
新たな出会いがうまれるように。
やったことのないことも
誰かと一緒にチャレンジできるように。
私たちの中にあるわくわくで
大人も子どもも誰もがいっしょに
笑顔と笑い声があふれる場所に
していきましょう。

インフォメーション

所在地：代田6-21-5(旧守山小学校)

開館時間：午前9時～午後9時30分

休館日：第2水曜日、第3日曜日(休日に当たる場合も休館)、
年末年始(12月28日～1月4日)

電話番号：03-6407-1685

【アクセス】

■井の頭線「新代田駅」徒歩5分

■東急バス(森91 大森操作所～新代田駅前)「新代田駅前」徒歩2分

■都営バス(宿91 新宿駅西口～新代田駅前)「代田六丁目」徒歩2分

ホームページはこちら



みんなの声

財団情報誌のWEBアンケートに寄せられたコメントを、ほんの一部ですがご紹介します。

数年前国分寺崖線の記事を見て興味をもちました。
自然が残る地域を守って下さい。 [70代 男性]

ボランティアの具体的な活動日や動機が記載されているので、「自分も参加できるかも」と思えるように感じた。 [50代 男性]

千葉県から世田谷に17年前に転居して来てとても緑が多いことに驚きました。街路樹や仙川、野川が綺麗に整備され素敵な散歩コースが多々あり、越してこられたことを嬉しく思っています。 [70代 女性]

さぎそう講習会に行って会員になったことがあります。地域のは抽選になるので会員専用のさぎそう講習会があったらと思います。 [50代 女性]

いつも折込で拝見させて頂いております。子どもが自然に興味あり楽しく読ませて頂いております。 [40代 女性]

以前のように自分の時間が取れるようになりましたので講習会等にもまた参加したいと思います。 [60代 女性]

トラまちのイベント報告

年4回発行しているトラスト*イベントカレンダー。
カラー版になって好評配布中！



最新のイベント情報は、
コチラからどうぞ！



世田谷の自然を体感する屋外のイベントは、
いつも大人気です。



春のみつ池
体験教室
(4/23実施)



野川せせらぎ教室
「虫をさがそう」
(9/11実施)

トラストまちづくりサポーター募集中！

世田谷の「ひと・まち・自然」を支える応援団に、あなたもなりませんか？私たちの身近にある自然や歴史的・文化的環境を守り育み、また世田谷ならではの区民主体のまちづくり活動の人材育成、資金助成、居場所づくり支援などを進めていくためには、多くの皆様の支えがなによりも大切です。



「子どもの参加」から地域の「場」づくりへ

世田谷トラストまちづくり発行の「参加のデザイン道具箱」シリーズ4冊目に「PART4 子どもの参加」があります。私はこの冊子の編集に携わり確信したことがあるのです。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、「子どもの参加」があるところには必ず「大人の参加」がある、「大人の参加」がないところには「子どもの参加」はない、と。

これには3つの大事なポイントがあります。ひとつめ。「子どもの参加」は、基本的には未来に向けた取り組みです。それを意識して実践しようとする大人の協力体制があることです。学校の事例では先生・保護者・地域住民が継続的に協力し合う体制をつくっていました。公園などの公的な「場」の事例では子どもに関わるセクターを含めた各部署が垣根をこえて横断的に連携し合っていました。ふたつめ。子どもと大人が混ざり合って互いにより刺激を受けるプログラムがあり、1回限りではなく時間をかけてゴールをめざしています。みつめは、協力体制づくりに「まちづくりファンド」や「トラまち」をはじめとする地域の中間支援機関が一定の役割を果たしていることです。子どもの参加を実現する「場」においてこそ、多様な人々との横断的継続的な協力と運営が必要であり、中間支援機関の果たす役割はとて大きいことがわかりました。これら3つのポイントを強調するため、

事例紹介ページに協力体制の図と年間のプロセス表などを記載しました。

守山小学校のビオトープづくり「あったらいいなこんな校庭」も掲載事例です。「子どもの参加」に経験豊富なまちづくりプランナーと生きものの専門家が協力してプログラムデザインをしていること、保護者有志の「あったらいいな、こんな学校の会」が学校との連携をオーソライズしていること、世田谷まちづくりファンドから資金助成を得ていること、これらが特筆事項です。場所のリサーチ、生きものの環境についての学習、場所のデザインと施工。こうした実体験をとおして子どもが見せる成長に、大人たち（先生も保護者も専門家）も感動し連帯を感じ、「子どもの参加」が大人に与える影響は甚大だったのです。その後、「あったらいいな、こんな学校の会」は1年間の各学年の授業テーマや協力体制を先生と直接話し合う場を設けるなど、環境学習のための継続的なしくみをつくりました。この経験による地域住民や中間支援機関とのネットワークは、まもりやまテラス誕生に確実に受け継がれたといえるでしょう。

すみれば自然庭園開園前の自然・生態調査隊活動にも子どもの活躍があるのですが：その物語も「PART4 子どもの参加」をお読みいただければさいわいです。

1980年代後半より、世田谷区企画部都市デザイン室にて「やさしいまちづくりデザインノート」、「ぶりっじ世田谷」などの市民参加事業を、世田谷区都市整備公社まちづくりセンター（現世田谷トラストまちづくり）にて中高校生によるまちの情報誌づくり「世田谷Teens編集部」などを担当。「地域共生のいえ」事業立ち上げにも取り組む。2004年より現職として、コミュニティデザインを研究テーマに、「小平NPO体験セミナー」「絵本：商店街の時間」「いわむろのみらい創生プロジェクト」「ばかばかたかの台商店街」「小平市立図書館連携プロジェクト」「立川駅西地下道壁画プロジェクト」などを手掛ける。一般財団法人世田谷トラストまちづくり理事 世田谷まちづくりファンド運営委員 (2013～2016年)



齋藤啓子

武蔵野美術大学造形学部
視覚伝達デザイン学科教授



▲参加のデザイン道具箱（全4シリーズ）

齋藤啓子

世田谷区の担当職員から、応援メッセージ！

「これはミンミンゼミで、その隣はアブラゼミだね。」セミの抜け殻調査に参加した際、私が拾った抜け殻の主を、次々に言い当てるボランティアの方の知識に驚かされました。また、楽しみを見つけながら調査や管理を行い、より良い特別保護区とするために各自が意見を出し合う様子には感服いたしました。

自然相手ならではの苦労も多々あるかと思いますが、引き続き楽しみを持ちながら活動に携わっていただけるとありがたいです。

みどり33推進担当部 みどり政策課 藤田遼二

●世田谷地域の貴重なオアシス

この環境のすばらしさを、ボランティアなど、区民の方々と守り育てて、次代に伝えていきます。



特別保護区とは

世田谷区では、樹林や水辺、動植物の生息地など、貴重な自然が残されている民有地を「特別保護区」に指定しています。建築行為など一定の行為を制限することで、みどりの保全を図っています。

●下草刈りと枝払い

お昼休みのあとは、保護区内の整備。来る一般開放日に向けて、支障になりそうなシダやササなど(下草)を丁寧に刈り取り、伸びた木の枝を剪定します。

下草刈りや枝払いをすることで林床(地面)に光が届くようになり、貴重な野草の保全にもつながります



経堂五丁目特別保護区 「春の一般開放」

日時：2023年3月18日(土)、19日(日)、
25日(土)、26日(日)、4月1日(土)、
2日(日)

※いずれも午前10時～午後4時

場所：経堂5-12-13



昨年の春の様子は
こちらから⇒



●おつかれさまでした！

作業終了後、道具の片付け。最後に、その日気づいたことなどを報告し合いました。



一緒に活動をして
みませんか？
随時、ボランティア
募集中です！

自然環境保護のため、普段は公開していませんが、年に二回、春と秋に一般開放日が設けられています。ボランティアの方々による解説も行われ、今では年間二千人以上の来場者があるほどに。街なかに残る豊かな自然、ぜひ一度、訪れてみてください。

ボランティアの方々の作業は、大きく分けてふたつ。保護区内の保全作業と調査活動です。保全作業では、主に落ち葉かきや下草刈り、低木の剪定など。併せて観察路の整備も行います。調査活動は、季節の移り変わりに伴う植物の状態の変化(開花、結実など)を調査。また、生息する生きもの、気温・照度・池の水温も記録し、これらの調査結果は二十年以上の分が蓄積されています。大幅な気候変動が叫ばれる昨今、このデータの蓄積は環境変化のひとつの重要な指標でもあると言えます。

経堂五丁目特別保護区は、小田急線経堂駅から南西に約十分ほど歩いたところにあり、1992年に世田谷区の条例で特別保護区に指定されています。

保護区内には二百種類に及ぶ植物が生い茂り、「だいだらばっちの足跡」という伝説も残る湧水をたたえる池もあり、数多くの野鳥や昆虫、水辺の生きものの棲家や憩いの場となっています。

この自然環境を保全しているのは10名ほどのトラストボランティアの方々。すでに十年以上携わっている方もおられ、その自然に対する深い知識に、新しく参加したメンバーは感心するばかり。

●まずは今日の作業を確認します

みんなで今日の作業の内容を確認。来る「一般開放日」の運営についても打合せをしました。

1



初めてのメンバーから
ベテランの人まで、
わきあいあい



●次にセミの抜け殻を分類します

先月、採集したセミの抜け殻を種類ごとに分類。ここ何年かは、アブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシの3種類の抜け殻が見つかっています。

2

植物・生きもの・環境の調査は
毎月やっています



●いよいよ経堂五丁目特別保護区へ！

植物の開花・結実の状況(フェノロジー調査)、生きもの調査、気温・照度・水温などの環境調査からスタート。記録として大切な野鳥・花などの写真撮影も行います。その後、みんなで調査した結果を報告し合います。

3

トラまち活動の
ひとコマ

経堂五丁目特別保護区ボランティア

2022年10月20日(木)、この日は月一回実施しているボランティア活動日。

セミの抜け殻調査のほか、特別保護区「秋の一般開放」に向けて、みんなで保護区内の整備なども行いました。



クヌギ

《ブナ科コナラ属》

世田谷で代表的な

「どんぐり」といえば、

スダジイ、シラカシ、

アラカシ、アカガシ、

マテバシイ、コナラ：

そしてクヌギ。

そのずんぐりむっくりしたフォルムから、子どもたちに人気です。

昆虫たちからも、引く手あまたです。春先の新芽をモリモリ食べるシジミチョウの仲間。夏には樹液を求め、カブトムシやクワガタ、スズメバチにとっても恰好の酒場となります。秋に落ち始めたどんぐりを集めて放置してしまふと、いつの間にかイモ虫がクネクネ。

その正体は、長い口（口吻）を持つゾウムシの仲間。これから土にもぐって蛹になり、成虫になる過程の途中なのです。



世田谷で見つけられる「どんぐり」をモチーフにした、財団のオリジナル手ぬぐい。隠れキャラのゾウムシ発見に、密かに喜ぶファンがいるらしい…。

クヌギやコナラは、武蔵野の雑木林を構成する木でもあります。薪や炭材以外にも、葉を肥料に、太い枝をシイタケの原木に、果実や樹皮などを染物用にも活用されていました。

もちろん、クヌギの実（どんぐり）は古来より食用としても重要でした。手間暇掛けて灰汁を抜き、デンプン粉にし、保存食としての役割もありました。そのまま食べるなら、スダジイやマテバシイがおすすめです。くれぐれも、ナッツアレルギーの方はご注意ください。

雑木林の手入れをすることでその環境が維持され、人はその恩恵にあやかってきました。今、その関係性が希薄になっています。管理不足のため、ササや常緑樹が蔓延り、林床に咲くはずだった野草も、姿を消しつつあるのです。

そんな中、区内に残る雑木林を次代に継ぐと、区民・行政・財団が協力し、調査・保全活動が続いています。生物多様性の観点からも見直されている雑木林。子どもたちがどんぐりの歌を楽しめる自然環境を、いつまでも。

ひと・まち・自然
WEB アンケート
実施中！

回答期限：2023年1月30日（月）

WEBアンケートにご協力いただいた方に、
オリジナルクリアファイルをプレゼント！

より魅力のある情報を発信するため、
ぜひ、読者の皆様方のご意見や感想をお聞かせください。



当財団にお寄せいただいた個人情報は、財団からのご連絡のために利用いたします。取得した個人情報は、法令の定める場合を除き第三者に提供することはありません。開示請求等の場合は、個人情報保護管理者（電話：03-6379-4300）までお問合せください。なお、WEBアンケートは、ユミルリンク株式会社が提供する「Web アンケート・フォームシステム Cuenote Survey」を利用しています。



一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

2022年12月発行
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300（代表）
Fax 03-6379-4233



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>



フェイスブック▶



ツイッター▶



インスタグラム▶

